

プライベートゾーン大切に

八学大生性の健康教室 園児らに分かりやすく

八戸学院大学の別科助産専攻の学生4人が24日、八戸市の八戸学院幼稚園で年長児と保護者を対象に「性の健康教室」を開いた。胸などの「プライベートゾーン」の大切さを分かりやすく伝えるため、文字やイラスト、寸劇で視覚的に説明。子どもたちが性被害から自分を守るため「大事などころを他の人に見せたり触らせたりしないようにしよう」などと呼びかけた。

同教室は同専攻の授業「健康教育技法」の一環で、助産師の資格取得を目指す小館杏佳さん、小向真菜さん、市澤孝子さん、石川莉菜さんの4人が市内の幼稚園や高校などで講話を行っている。

4人は園児約30人に水着姿の男児と女兒のイラストを示し、「水着で隠れているところがプライベートゾーンで、とても大事なところ」と強調。他人が自分のプライベートゾーンに触れようとした時、相手に「ノー（嫌だ）」と言い、自分を守るために「ゴー（逃げる）」、先生や保護者に「テル（話す）」といった行動を取るよう伝えると、園児たちは「ノー、ゴー、テル」

八戸

と声に出して言葉を覚えていた。講話終了後、小向さんは「子どもたちと会話のキャッチボールができたので、伝えたいことが伝えられたと思う」と笑顔を見せ、園児たちへ「大人に対して言いづらいかもしれないけれど、嫌なことは『嫌だ』と伝えられるようになってほしい」と語った。

（千葉真由美）



「プライベートゾーンを大事にしよう」と園児たちに呼びかける八学大別科助産専攻の学生たち